

私たちが進みつづける理由

百万人の労働者行進にて キム・ロザリオ

今日は仕事がないからまた明日出なおせと言われた
すべての労働者のために
私たちは進む

家族を養えないことで自分を恥じなければならない
すべての父親のために
私たちは進む

仕事を二つかけ持ちしなければならず、そのあいだ一人ぼっちで家にいる子どもを心配する
すべての母親のために
私たちは進む

両親が残業しなければならぬせいで、学校から空っぽのアパートに帰宅する
すべての子どもたちのために
私たちは進む

利用されたあげく上司に屈辱を受け、語学を習う時間すらないために
一生きぬことに必死な人間がどうやって語学学校に行く時間があるのだろうか？
言い返す言葉をもたない、すべての労働者のために
私たちは進む

子どもを守り育てるために、生活を切りつめ、さまざまな犠牲を払ったあげく、
もつとしい人生を手に行けるといふ軍の約束を信じた子どもが、
人を殺すか、または自分が殺されるために戦地に送られる姿を見送る、すべての母親のために
私たちは進む

なぜなら今こうしている間にも人々が死につづけているから……今も……この瞬間にも
私たちは進む

そして、もしかしたら、これ以上死なずにすむかもしれないという可能性のために
私たちは進む

なぜなら私たちが何が正しいかを知っていて、それを求めているのだから
そしてそれを手にする権利があるからこそ
私たちは進む

あまりにも長い間、あまりにもたくさん犠牲がはらわれ、
代わりに返ってくるものはあまりにも少なすぎたから
私たちは進む

「私たちが進みつづける理由」

キム・ロザリオ 詩
堤 未果 訳
池辺 晋一郎 曲

ついに完成!!

この詩に、2008年日本のうたごえ祭典 in 東京の祭典総監督、作曲家の池辺晋一郎先生が作曲。先生の指導で3月29日、祭典成功1000人実行委員会で最初の練習を行います。

この詩は、堤さんの本「報道が教えてくれない アメリカ弱者革命」の最後に紹介されていたものです。詩を書いたキム・ロザリオさんはヒスパニック系アメリカ人。息子をイラク戦争に送ってしまった母親、その後悔ともうこれ以上悲しい想いをする母親をださない、とシンディ・シーハンさんらとともに反戦行動を始めます。しかし、息子を戦場に送ってしまわなければならなかったアメリカの社会背景。2004年10月16日ワシントンDCでは労働者の100万人デモになり、詩は、そのデモでのロザリオさんの想いを綴ったものです。

堤さんの本のメッセージでもある、すべての人たちに現実を見つめて、あきらめないで歩き出そうとよびかけている詩です。

この詩に、「ぜひ池辺先生に作曲してもらい祭典で歌いたい」そうお願いしたのは昨年暮れ。超がつく作曲の依頼も多い先生。しかし、この詩を読んで「書ける」とお願いでき、そしてついに本日、3月17日夕、先生から「できました」のメールが届きました。さあ、最初の練習です。みなさんすてきな出会いの時を一緒にすごしましょう。

うたごえ新聞編集長・60周年記念 2008年日本のうたごえ祭典 in 東京 運営委員 三輪純永